

発行 福岡県社会福祉協議会
 子育て支援事業推進室
 〒816-0804 春日市原町3-1-7 クローバープラザ6階
 TEL 092-584-3377 FAX 092-584-3369
 E-mail kosodate@fuku-shakyo.jp



那珂川町 子育てサークル「ぶちとまと」

地域の中での子育て

地域活動のひとつに、子育て中の親子の交流の場として、子育てサロンやつどいの広場があります。ここでは、ボランティアの方や子育て真っ最中のお母さんたちが、訪れてくる子どもたちや大人たちを温かく迎え入れてくれていて、地域のちいさなつながりが生まれています。

地域には、老若男女いろんな方が暮らしています。同じ地域で暮らす人々が、子育てに関わり、子どもに関わっていくことが、子育てしやすい地域づくりにつながるし、子どもたちが安心して生活できる地域づくりだと考えます。「最近の母親は…」と言う前に、多少おせっかいだとわかっていても、あたたかいまなざしを向ける、声をかけるということを当たり前のことにしていきたいものです。

もくじ

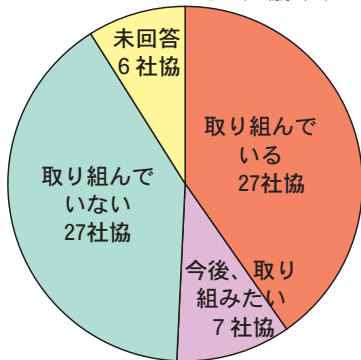
- 市町村社会福祉協議会の子育て支援……………2
- 子育て支援モデル指定社協決定……………3
- 那珂川町「ぶちとまと」……………4
- 子育て支援情報……………4

そして、子育て経験者の方も、現在子育て中の方も、「昔と今は違う。」とあきらめてしまうのではなく、昔と今の子育ての共通点や違いを理解した上で、これからの子育てについて話し合いながら、人のつながりを大切に、地域の中で子育てをしていきたいものですね。

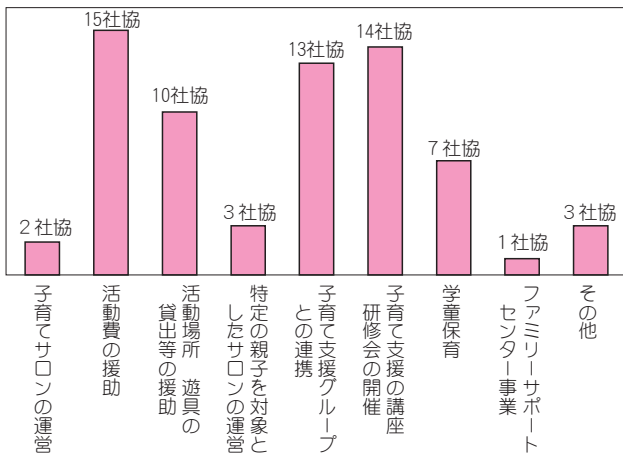
(子育て支援事業推進室)

市町村社協の子育て支援

【図1】子育て支援事業に取り組んでいる市町村社協
(67社協中、61社協回答)



【図2】市町村社協が取り組んでいる子育て支援事業



平成18年3月に、県内市町村社会福祉協議会（以下、社協）を対象に子育て支援に関するアンケート調査を行いました。市町村の合併に伴い、県内の市町村社協も平成18年5月現在で67（政令市除く）となり、そのうち、61社協から回答をいただきました。

子育て支援事業に取り組んでいる社協は、27社協あります。

【図1】平成17年8月時点の調査では83の社協があつたうち、16の社協しか子育てサロンに関わりを持っていませんでしたが、わずか1年足らずで11社協の増となっています。

これは、福祉のまちづくりの範囲が、高齢者や障害者、子育て中の親子といった地域で暮らす全ての人を対象にしたものであることを示しています。

また、社協の子育て支援の取り組みは、子育てサロン・サークルの活動費、活動場所の確保等の支援が多いようです。これは、社協が子育て支援団体の立ち上げに関わっている場合が多く、団体と連携した活動に取り組んでいます。

社協が関わりを持っている子育てサロン数は、県内で97のほりまです。このサロン活動は、福岡市近郊の都市部だけでなく、山村地域

や農村地域においても、子育て中の親子が出会う場として積極的に行われていることがわかりました。

さらに、子育て講座、子育て支援に関する講演会を開催している社協は、14社協あり、地域住民に対する啓発やボランティアの発掘に力を入れている社協も多くあります。【図2】

子育てのしやすい地域がひいては、誰もが住みやすい地域につながることを考え、今後も地域の子育て支援活動を支援していきます。



サロンの様子



眠たいと～



一緒にする？



なあに？



ハイハイできるかな？

平成18年度モデル指定社協連絡会議

モデル指定社協	事業計画の主な内容
春日市社協	自治会等が行う子育てサロン活動の支援を行う。また、ボランティアの発掘・育成のためのボランティア準備講座を開催する。
大野城市社協	子育て当事者であるお母さん達の子育てサークルの支援を行う。また、子育てサポーターの養成講座、定例会を開き、ボランティアの組織化を図る。
太宰府市社協	ボランティア団体等と連携し、子育てサロンや勉強会を通して、同じ地域で暮らす親子同士の交流、活動団体同士のネットワーク基盤づくりを行う。
前原市社協	子育て支援ボランティアの養成講座、孫育て講座を開催し、特に中高年層に子育てを理解してもらい、親子に優しく寄り添う支援者となってもらおう。
宮若市社協	現在行われている、乳幼児や障害を抱える親子を対象とした子育て支援活動を、合併により拡大した市内全域に広げ、ネットワークを拡充する。
桂川町社協	子育てグループ、おやじの会との連携、心身障害児通園事業等をとおして、子育てしやすいまちづくりを目指す。
柳川市社協	子育て支援ボランティア養成講座を開催し、子育て中の親が気軽に交流や情報交換できる環境を整える。
行橋市社協	小地域での子育てサロンを支援し、各サロンの交流を図る。また、養成講座を行い、託児ボランティアを養成する。
那珂川町社協	子育て支援関連のイベントの開催やネットワークづくり等によって、地域住民が子育てに関心を持ち、もともと持っている知識・技術・知恵を活かし活気ある地域づくりを目指す。
志摩町社協	社協主催の子育てサロン「こどもひろば」へのおもちゃ購入や子育て支援ボランティアの養成を行うことで、地域ぐるみで子育てを支援していく基盤づくりとする。
福智町社協	町内に居住する外国人のお母さんを対象とした子育てサロンを実施し、誰もがいつでも安心して住める町づくりをすすめる。
矢部村社協	子育てサークル「のびのびクラブ」と連携し、子育てサロンを開設する。子育てサポーターの育成、ネットワークづくりを行い、地域福祉の担い手を育てる。

平成18年度のモデル指定社協連絡会議の第1回連絡会議を6月16日に開催しました。昨年からのモデル指定を受けている6社協と今年度新たに指定を受けた6社協、合計12社協の担当職員とサロン活動等の実践者が集い、今年度の事業についての情報交換を行いました。

今回は、モデル指定を受けていない社協の職員や実践者のオブザーバー参加もあり、活発な意見交換が行われました。今後の連絡会議にもオブザーバーの参加を募り、子育て支援の情報交換の場としていきたいと考えておりますので、ぜひご参加ください。



連絡会議の様子。モデル指定社協以外にも参加し、情報交換の場となりました。



こ3いん



買けないわよ



えいえいっ



かぶとだよ！

那珂川町ぷちとまと



布絵本の読み聞かせにみんな真剣!!

片縄第4公民館では、第1・3火曜日に子育てサークル「ぷちとまと」が活動をしています。

活動内容は、参加するお母さんたちで担当を決め、元保育士ママのリズム遊びや図書館から借りてきた布絵本の読み聞かせなど。手作りの活動の中で、子育ての情報交換を行いながら、楽しい時間を過ごしています。

「マンションでの生活では、ご近所に気を遣い、子どもを静かにさせなければならぬけれど、ここなら思い切り遊べます。」と、おっしゃるように、お母さんも子どもも誰に気兼ねすることなく、広い公民館を走り回って遊んでいます。



問い合わせ先
那珂川町社会福祉協議会
TEL 092-952-4565

「ぷちとまと」の活動が、公民館を使えるようになってきたきっかけは、公民館近くの公園に遊びに来ていたお母さん達に前区長光廣さんが声をかけたことだと思います。

現区長の松永さんは「活動はお母さんたちの自主的なもので私たちは何もしていませんよ。」と言いつつも、活動時には顔を出し、お母さんや子ども達もすっかり顔なじみの様子です。

那珂川町社協では、「地域子育てネットワーク事業」を実施して、このような公民館や町内会が子育て中の親子を支える活動を支援しています。

メディア漬けと子どもの危機 清川 輝基 講演会

NHK放送文化研究所の清川輝基先生から、子どもたちの育ちとメディアの関係について、わかりやすくお話していただきます。

- 平成18年9月17日（日）13：30
- 問い合わせ先「ひだまりの会」 TEL 092-724-6323

「緊急サポートネットワーク事業」に応募!

厚生労働省は、急な残業や出張、子どもの急な病気・病気回復期でも安心して子どもを預けられる事業を行う団体を募集しました。福岡県社会福祉協議会は、はたらくお父さん・お母さんへのサポートとして、緊急な預かりにも対応できるためのネットワーク事業の実施を目指して応募しました。



新しく担当になりました川上です。
新しい出会いを楽しみに、これから頑張ります。
よろしくお願ひします。

(子育て支援事業推進室)



子連れで買い物に出かけると、それだけでいろんな人との出会いがあります。

息子が2歳半の頃、お店の商品を購入入前に開けてしまつ、ということがたびたびありました。商品の袋を開けるたびに、息子を連れてお店の人に謝りに行くのですが、叱りながら謝る三十路の母と泣きながら謝る2歳児を前に、お店の人の対応はまちまちで、「いいとよ。気にせんでいいとよ。」と言いつつ、笑顔でレジを打つ店員さん。「ありや、次からはお母さんに買ってもらうから開けることせんね。」とやんわり叱ってくれる店員さん。「お母さんがちゃんとみてなかったのが悪いよねえ。」と一言刺す店員さん。同じお店の店員さんでも、対応はまったく違います。

子育てに対する考え方は人によって違っていて、我が子をとあして、周囲の人の子育てに対する考えや価値観を参考にさせてもらっています。そうした中で、親以外にも子どもを叱ってくれる人、道を踏み外してしまいそうな子どもを正してくれる人の存在は大切だとしみじみ感じています。

おかげさまで、半年たち3歳になった息子は買う前に商品の袋を開けることはなくなり、気に入った商品があると無一文でもかまわずレジに持っていく、「これ、ください。」と笑顔を振りまいています。